

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第五小学校 第6学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる。 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手の立場での注意するポイントをその都度提示し、教科外でも習慣化させたい。話すこと・聞くことでのテスト等の「思考」に関する評価を用いて検証する。(平均正答率80%) モデル文を用いて筋道の通った文章について指導する。文章全体の構成や展開を考え、筋道の通った文章になっているか言語活動の作品で検証する。(平均達成率80%) 校内研究で検証している手だてを用いて授業を行う。読むことでのテスト等の「思考」に関する評価を用いて検証する。(平均正答率90%) 朝学習では漢字の書き取り練習を行い、確実に漢字を習得させる。(90%) 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方の理由や公式の成り立ちを理解することに課題が見られる。 思考・判断・表現の力に二極化が見られる。自力解決に課題が見られる。 計算における技能及び図形に関する理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい問題を解決する場面で、自力で解決できるような具体物や図などを用意するとともに、時間を確保する。テスト等の「思考」に関する評価を用いて検証する。(平均達成率80%) 数直線の図を使った指導を通して、児童一人一人が解決の見通しをもてるようにするとともに、習熟度に応じた指導の工夫を行う。ワークテスト等の「思考・判断・表現」の観点における正答率を用いて検証する。(平均正答率80%) 計算技能の習熟の時間を十分に取るとともに、図形領域の学習においては個別指導を丁寧に行う。ワークテスト等の「知識・技能」の観点における正答率を用いて検証する。(平均正答率85%) 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> その状況や立場などを配慮して相手の気持ちを考えることに課題が見られる。 多様な感じ方や考え方を受け止めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や他教科でも相手の立場を理解しようとする場面を設ける。多面的・多角的な視点を用いた振り返りの記述から検証する。(平均達成率80%) 多様な感じ方や考え方に接することができるよう、他者と対話したり協働したりする場面を多く設定する。授業中の発言や振り返りの記述で自分自身のこととして表現できているか見取る。(平均達成率80%) 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然事象からの気付きを基に、学習問題を立てることに課題が見られる。 既習の学習や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想することに課題が見られる。 実験や観察の結果から、多面的に考えてより妥当な考えをすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や差異点を見つけやすい自然事象に触れさせると共に、適切な声掛けを行う。授業中の発言やノート、活動の様子で評価する。(B評価80%以上) 単元に入る前や事象提示の際に既習事項を確認したり、日常生活を想起したりできるようにして、自分の考えをもち予想を立てられるようにする。授業中の発言やノート、活動の様子で評価する。(B評価80%以上) 学習問題を振り返り、実験によってどのようなことが分かり、日常生活などでもどのような場面に当てはまるのか個人、グループ、全体で考えられる場をつくる。授業中の発言やノート、活動の様子で評価する。(B評価80%以上) 	